

第1回会議 主な意見の取りまとめ

【上限数を40人から35人へ変更することについて】

- 東京都から35人編制に関する通知が来ている以上、今後の学級増は否めない。その中で受入れを40人のまま引き継ぐのは、大きな影響があると考え、上限を1学級分に合わせるというのが一つの方針なのではないか。
- 学校の教室に関してはすぐに対応できない部分もあると考える。将来的な計画が見通せていなければ、受入数を引き下げるとするのが妥当ではと考える。
- 35人学級が導入される状況で40人を受け入れてしまうと2学級増えてしまい、今後の対応に支障が出るということが上限引き下げの根拠としては十分と考える。



受入れ人数の上限を35人学級の導入に合わせて40人から引き下げることについては、概ね一致

【下限値について】

- 下限に関する設定も必要と考える。
- 35人を上限として、より低い数字については学校毎に選ぶという形にしたい。
- 可能な限り受け入れるつもりだが、学校事情によってはどうなるかわからない面もあるため、ゼロという選択肢は残しておきたい。
- ゼロという数字を設定した際のインパクトは非常に大きく感じる。制度面を考えると、なかなか実行に移しにくい。
- 中学入学に合わせて、わざわざ学区域に転居してくる生徒もいる。引っ越しは個人・家庭の判断ではあるが、ゼロの設定をしても入ってくる可能性は大いにある。



- 現行のとおり受入れの制限・下限については、各学校の状況を踏まえたうえで学校と学事間の協議を経て決定する。
- 上限の5人引き下げに伴い、下限値も5人設定まで学校が選択できるようにする。
- 状況によっては0人の受入れも許容する

等のご意見